

(様式 3)

農業研究成果情報

No. 749 (平成 28 年 5 月) 分類コード 02 -09 熊本県農林水産部

施設栽培ヒリュウ台「肥の豊」における若木期の着花抑制法

施設栽培ヒリュウ台「肥の豊」では、12 月から 2 月までの間に結果母枝の切返しを行うことで着花が抑制できる。

農業研究センター果樹研究所常緑果樹研究室 (担当者: 川端義実)

研究のねらい

施設栽培におけるヒリュウ台「肥の豊」は、県内での栽培が増加しつつあるが、若木期においては着花過多になりやすく、樹勢低下による樹冠拡大の抑制が懸念される。

そこで、着花過多を抑制して樹勢維持と樹冠拡大を図るために、結果母枝の切返しによる着花抑制効果を検討する。

研究の成果

1. 12 月または 2 月に結果母枝を切返すと、無処理に比べて総状花数と着花数が少なくなり、着花は抑制される (表 1、表 2)。
2. 12 月と 2 月の結果母枝の切返しでは、着花数は同程度であり、時期の違いによる差はない (表 2)。

普及上の留意点

1. 本成果は、樹勢がやや弱く通常より着花が多い樹における結果である。
2. 2011 年 3 月に無加温施設内にヒリュウ台「肥の豊」の 1 年生苗を定植し、2 年 (2013 年) あるいは 3 年 (2014 年) 育成した樹での結果である。
3. 着花抑制のための結果母枝の切返しは、30~40cm の新梢の先端から約 1/3 の位置を切り返した。長い枝は弱めに、弱い枝は強めに切返すことで、同等の着花抑制効果が期待できる
4. 樹勢の強い樹で同程度の切返しを行うと、より着花抑制効果は高くなる。
5. 若木期は樹冠拡大を促すため、主枝・亜主枝の先端や伸ばしたい枝は切返しを行う。
6. 着果させたい枝は着花を確保するため、先端 2 芽程度の切返しを行うか、あるいは切返しを行わない。

表1 施設栽培ヒリュウ台「肥の豊」における結果母枝の切返しの有無が着花に及ぼす影響(2013)

処理区	処理後の 結果母枝長	1結果母枝当たり			
		有葉花数	有葉 総状花数	無着花 新梢数	着花数
	cm	個	個	本	個
12月切返し	24.4 a	6.8 a	3.4 a	0.25	10.2 a
2月切返し	23.6 a	5.6 a	5.1 a	0.00	10.8 a
無処理	35.5 b	2.7 b	22.8 b	0.00	25.5 b

注1) 12月切返し区は12月11日、2月切返し区は2月10日に実施

注2) 試験規模: 1樹8枝の3反復

注3) Tukeyの多重検定により異符号間に有意差あり(5%水準)

表2 施設栽培ヒリュウ台「肥の豊」における結果母枝の切返しの有無が着花に及ぼす影響(2014)

処理区	処理後の 結果母枝長	1結果母枝当たり			
		有葉花数	有葉 総状花数	無着花 新梢数	着花数
	cm	個	個	本	個
12月切返し	21.8 a	3.4 a	7.3 a	0.10	10.7 a
2月切返し	22.4 a	3.1 a	6.8 a	0.00	9.9 a
無処理	30.2 b	9.7 b	18.1 b	0.00	27.8 b

注1) 12月切返し区は12月11日、2月切返し区は2月15日に実施

注2) 試験規模: 1樹2枝の5反復

注3) Tukeyの多重検定により異符号間に有意差あり(5%水準)

写真1 結果母枝を切返した枝の新梢発生と
着花状況

写真2 無処理枝の新梢発生と着花状況